

プレジジョンベースのグレードアップバージョンとして世に送り出されたジャズベース、その違いは、まずネックの変更である。プレジジョンの太くかつローからハイまでグリップのあまり変化しないネックに対し、ベースistがかつて慣れ親しんだ、弾き易さを感じ得るローズウッド・フィンガーボードでウッドベーススタイルのテーパーの強いものに変更された。

次にボディについては当時、同時進行で開発されていたストラトキャスターのグレードアップモデル“ジャガー”及びその前身である“ジャズマスター”の影響を受け、プレジジョンの普及で変化した、ベースistのプレイングスタイルに、よりマッチする平行四辺形のオフセットウエスト・コンタードボディが採用された。

ピックアップについてはさらに斬新な試みがなされた。プレジジョンで高い評価を得たダブルポールピース・システムはそのままに、2個1組であったピックアップを1つにまとめトーンレンジを広げるとともに、これを逆相に2個マウントし、それによって一度は失われたハムキャンセリング効果を再び取り戻し、それぞれのピックアップにボリュームとトーンをコントロー

* Jazz Bass

ルさせることで、無限とも云えるサウンドバリエーションを実現したものである。

ジャズベース、その誕生は1962年のことであり、今、ヴィンテージシリーズに残されたのは、その最も初期のオリジナルにのみマウントされた2連コントロールのモデルである。



Control

2連ポットコントロールは内側がボリューム、外側がトーン。フロント、リアそれぞれの組み合わせでバリエーションは無限。またブリッジから走る細い金属ストラップはアース線。いずれもこの時期のものにだけ見られるスタイルである。

Body

オフセット・ウエスト、コンフォート・コンタードボディは1958年にパテント申請された。プレイヤーの体に合わせてカットされたコンターボディと座って弾くのに容易なボディのくびれの位置をずらしたオフセットウエストという考え方の斬新さが評価され1960年認可された。



'62 Vintage Jazz Bass
(Re-issue of 1962 production)

Pickups

'62 Vintage Jazz Bass (Re-issue of 1962 production)

2 separate single-coil (Series-wired, diametrically phased)

Controls

2 Volume, 2 Tone

Scale Length

34" (863.6mm)

Fretboard

Rosewood

Frets

20 Vintage-style

Radius

7.25" (184.2mm)

Body Material

Alder

Colors

800, 806, 841

